

グループポリシー スタートアップスクリプトの設定

以下の設定により、Windows スタート時にサーバーに配置したファイルを管理者権限にて自動実行することができます。実行時の出力ログを回収することも可能です。

※詳細な設定は、各端末や Active Directory の設定、ネットワーク環境等に依存します。

スクリプトを適用する前に、検証環境での動作確認をお願いいたします。

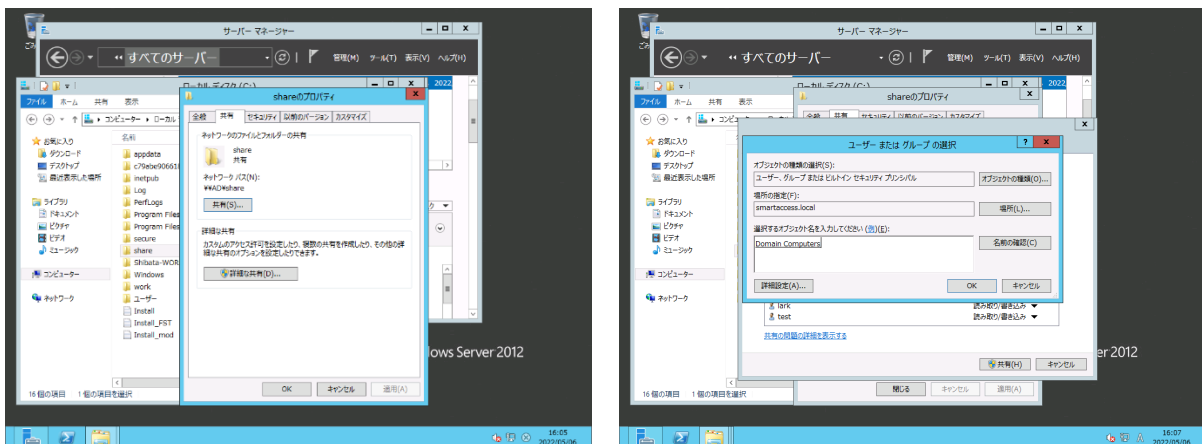
1. フォルダの共有

スタートアップスクリプトの配置先、実行ログ出力先となる共有フォルダを作成します。

両者を異なるフォルダとすることも可能です。Active Directory のデフォルトのフォルダでもかまいません。

フォルダにアクセス権を設定します。

上記で作成したフォルダに Domain Computers に対するアクセス権を付与します。



2. スクリプトの作成

ファームウェアアップデートを実行するスタートアップスクリプト update.bat ファイルを作成します。

本資料の巻末<付録>をご参照ください。

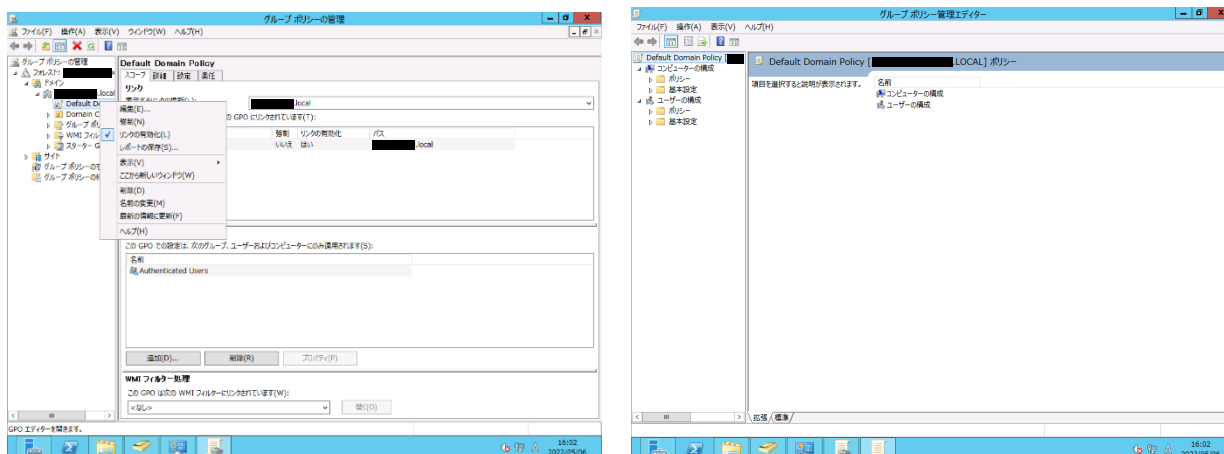
3. スクリプトの配置

作成したスクリプトを上記の共有フォルダに保存します。

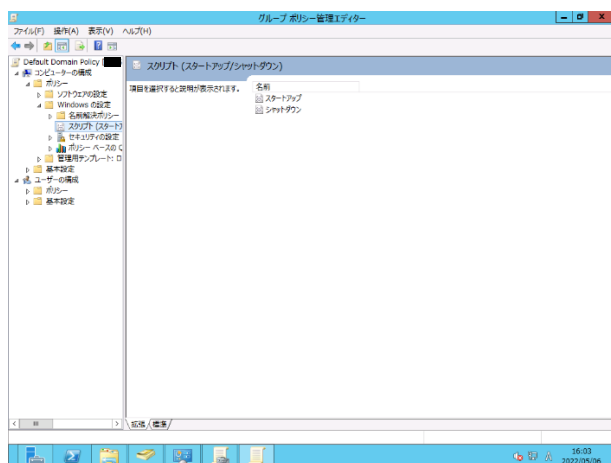
4. グループポリシーの設定

Active Directory サーバーでグループポリシー管理エディターを開きます。

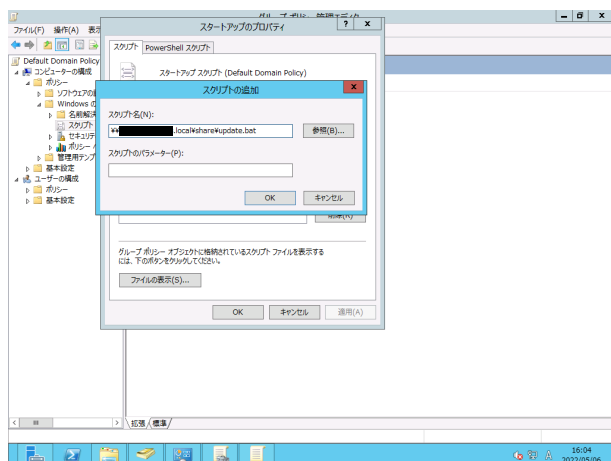
※スクリプトの適用対象となる OU (コンピュータ) に対して設定します。



Windows の設定 - スクリプト(スタートアップ/シャットダウン) - スタートアップスクリプトを開きます。



スタートアップスクリプトに作成したスクリプトを指定します。



以上

Copyright Fujitsu Client Computing Limited

<付録>

■ ファームウェアアップデートツールの準備

1. 「フラッシュメモリファームウェアアップデートツール」のダウンロードページからファイルをダウンロードします。
2. ダウンロードしたファイルをクリックして解凍します。
3. 「FlashMemoryFWUP」フォルダーを共有フォルダーにコピーして設置します。

「FlashMemoryFWUP」フォルダーには、以下のファイルが生成されています。

[ファイル] FlashMemoryFwUpdateTool.exe

[実行権限] 管理者

[フォーマット] FlashMemoryFwUpdateTool.exe /s (サイレント実行)

■ スタートアップスクリプト update.bat の例

以下の例では、実行ファイルの設置・ログファイルの出力先フォルダーを ¥¥192.168.0.100¥share¥ としています。
なお、IP アドレス直接指定ではなく、Active Directory のサーバー名を指定することも可能です。

update.bat

rem Firmware Update ツールのサイレント実行

¥¥192.168.0.100¥share¥FlashMemoryFWUP¥FlashMemoryFwUpdateTool.exe /s
